

帯笑園保存会 会報

発行元 保存会事務局
発行責任者 鈴木 泰次
2022年 9月 30日
No. 12

コロナ禍を超え各種の行事を開催

ここ数年は、コロナ感染拡大防止のため、各所でイベントやスポーツ大会等が自粛に追い込まれるなど寂しい時期がありました。今年も、感染拡大防止に一層注意を払いながら、徐々に流行以前の暮らしを取り戻す方向性が示されました。

これを受け、帯笑園でも四月の桜草の観賞・琴の演奏会、エビネ山野草展に続き、五月に春の山野草展、六月にウチヨウラン展を開催しました。いずれの催しも天候に恵まれ、久々の開催に大勢の皆さんが来園されました。サクラソウは、従来より栽培に取り組む方々が増え、出展数もこれまでにないほどの数になりました。



エビネ山野草展



春の山野草展

昨年は、コロナ感染拡大に伴い、開催を自粛しましたが、今年も本会幹事の佐藤喜美雄さんが中心になり、開催にこぎつけました。
感染拡大防止のため、屋外での展示となり、満足のゆく展示ができませんでした。十分楽しませてくれました。

帯笑園には何回目かの出展で、開催を楽しみにしているという声も聞かれる愛鷹山草会の皆さんによる展示会です。気取らない展示のあり方が人気の秘訣ではないでしょうか。



ウチヨウラン展

会員の佐野光弘さんが、伊豆うちょう蘭会の仲間の皆さんと研鑽を積んでいる成果を毎年披露しているのが、本会のウチヨウラン展です。
梅雨の時期の開催ですが、天候にも恵まれ盛会でした。

庭園整備計画(案)まとまる

帯笑園の庭園整備について、園芸部会が顧問の鈴木昌宙さんの指導の下、検討を重ね、試案を取りまとめました。保存会会報に掲載し、皆様のご意見、ご要望をいただきながら調整していきたいと考えて



います。帯笑園に残された江戸時代後期に描かれた古絵図から見た庭は広大で、マツ、マキ、ヒノキ、ツバキ、ウメ、ソテツなどの植え込みばかりでなく、十種以上の盆栽棚がありました。オモト、セッコク、マツバラなどの古典園芸植物、舶来草花やボタン、シヤクヤク、ハナシヨウブなどの花壇があり、年間を通して花が咲き、来園した人々を楽しませていたと思われま

とされます。

ただ、現在の庭は規模が小さく、盆栽の類もないことから、樹木の植え込みと花壇を整理して、折節にそれぞれの植物を楽しめる庭として整備を図ることとなりました。シーボルトの『江戸参府紀行』や植松家に伝わる『草花名録』、帯笑園の古絵図などを参考にして、再構築を図ります。本会が翻刻・刊行した『帯笑園撮録』にも様々な植物が書かれており、参考になります。

庭園整備の基本

庭を南・中・北の三つに分け、北側を常緑樹、中央を落葉樹、南側をシヤクヤク、ボタン、フジを中心にした数か所

の花壇で構成します。万花谷沿いにはナデシコ、キキョウなど季節の鉢植えの花を展示します。展示棚には愛好家グループにより、サクラソウ、ウチョウラン、キクなどの鉢物を展示していただき、市民の皆さんが楽しめるような庭園づくりを心掛けていきたいと考えております。



6月開催 人気の高いウチョウラン展

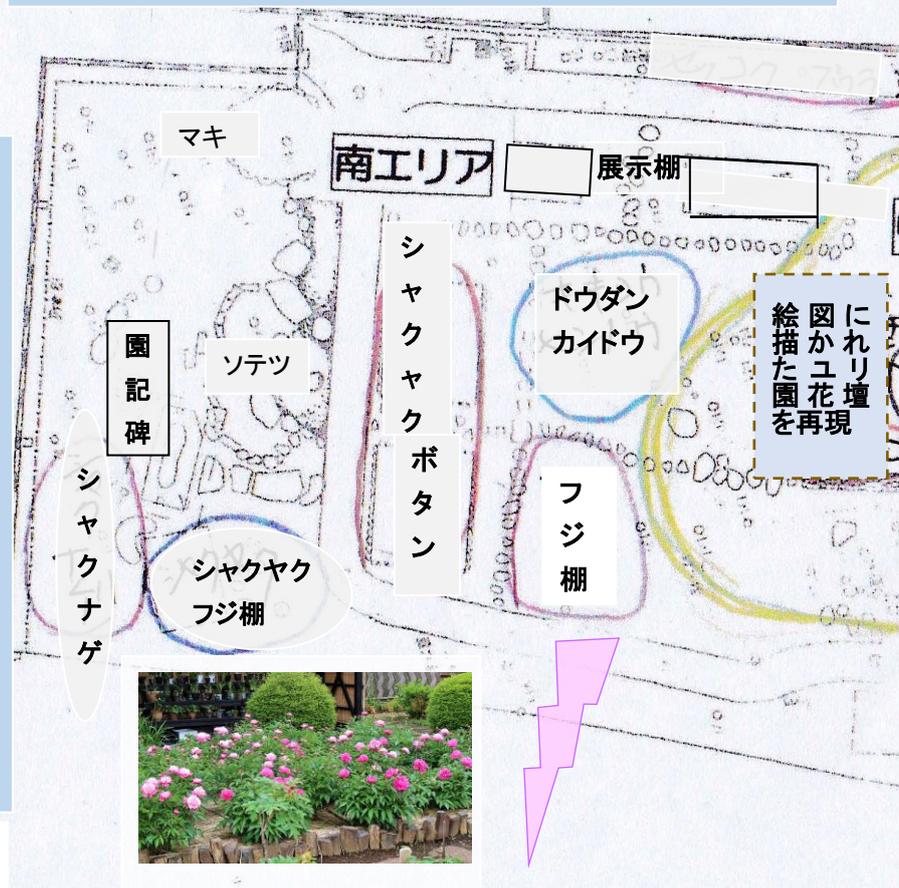
新設のユリ園花壇

中エリアの落葉樹として、いまもサルスベリ、ウメ、モミジ、ドウダンツツジ、ウツギが茂りますが、絵図では、モモ、ナシなども植えられていたことが分かります。また、『撮録』には、しばしばカイドウの花が登場します。

シーボルトが著した『江戸参府紀行』は、帯笑園に関する記録として大変貴重です。登場する樹木について詳しく調査し、栽培してみたいものです。



万花谷を彩る季節の草花



盛会だったアサガオ展

会員らが育てた「アサガオ展」が七月末の三日間、園庭で開催されました。園芸部会がアサガオの育て方の講習を開催し、見頃になったアサガオ二二〇鉢を持ち寄ってもらいました。朝八時から前例のない催しでしたが、三百人も多数の方に作品を楽しんでいただきました。見事に育った大輪の在来種に加えて珍しい変化アサガオも咲きそろい、素敵な展示会となりました。栽培用の土を混ぜ合わせ、規格をそろえた鉢と種子を配布するなど苦労された園芸部会の皆さん、お疲れさまでした。



育て方の勉強会



用土の混ぜ合わせ



植松家旧蔵「双鶴図」のプリカを制作

昭和五十三年に植松家から東京国立博物館(以下「東博」)に寄贈された四十九件の美術作品の中からレプリカの制作が比較的容易な作品を選び、東博のご協力をいただきながら複製の制作を進めています。最初に、七代目当主植松孚丘が師の円山応挙に暫しのお暇乞いをした際、贈られた「双鶴図」のレプリカを制作しました。今回は、植松家と京の文化の仲立ちをした斯経禅師から贈られたという池大雅の筆になる「酔李白図」を複製しました。

東博に特別な便宜を図っていただき、所蔵する同作品を最新機器により撮り直していただくことができました。お蔭様で、デジタル撮影された最新の写真データによる印刷は素晴らしい出来栄となりました。これを前回と同様に軸装して広く市民の皆様にもご覧いただけるようにしております。当分の間、土日祝日の開園日に臨春亭でご覧いただけますので、ぜひご来園ください。

先日、沼津市立図書館で開催された静岡県富士山世界遺産センターのセミナーで、東博の大橋研究員からこの絵の入手経緯などが詳しく紹介されました。斯経禅師から贈られたものであることが軸の箱書きから知られるとの説明がありました。本会ではそうした経緯まで知るところではなかったのですが、ちょうどよい機会に恵まれたことに感謝いたします。



池大雅筆
酔李白図
国立東京博物館蔵
昭和53年
植松嘉代子氏寄贈